

# IT時代のヒューマンインタフェース 現状と展望



依田文夫\*



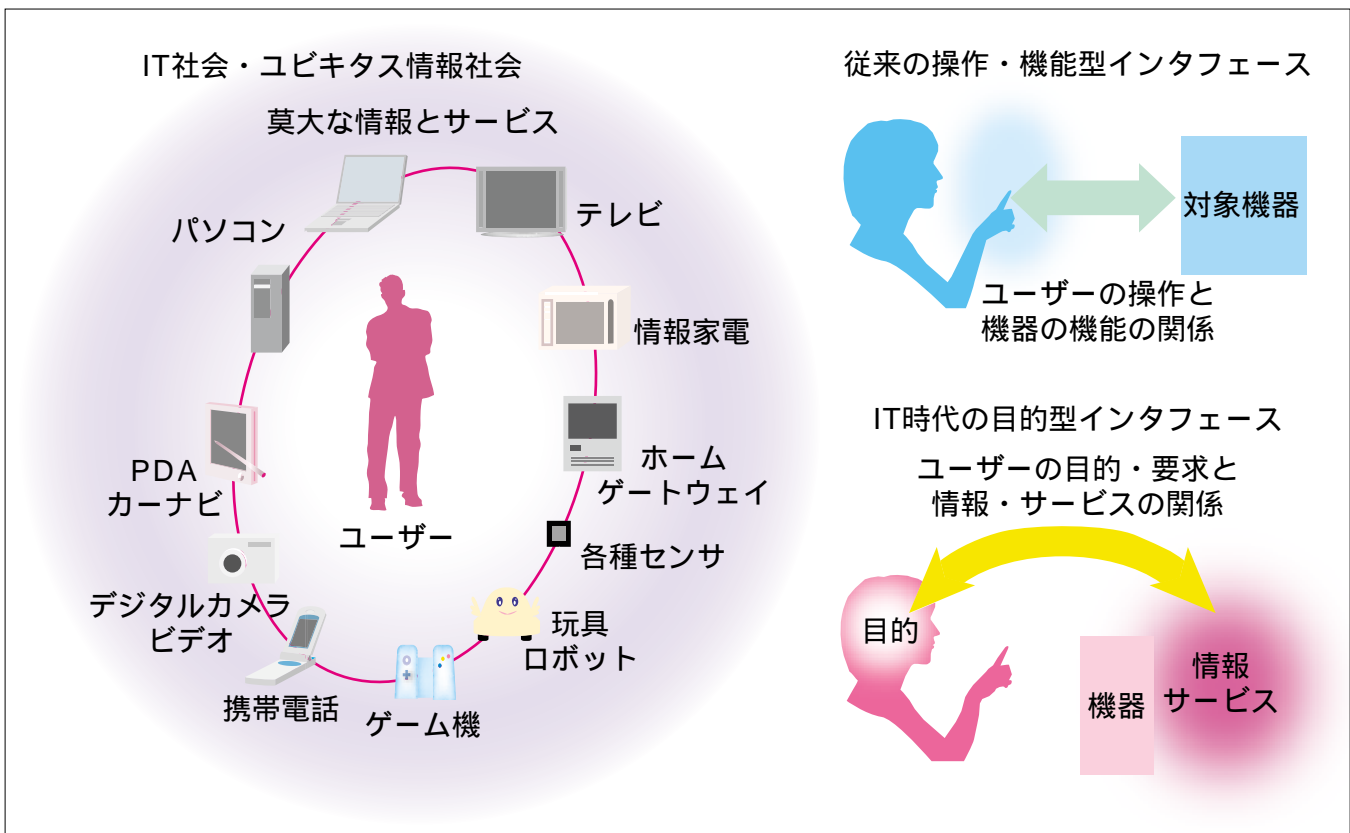
石川 泰\*\*

## 要 旨

インターネット利用者数の増加，携帯電話の普及など，IT(Information Technology：情報技術)は，“情報社会”と呼ぶにふさわしい広まりを見せている。今後，この社会は，どこにでもコンピュータが存在し，だれでもが情報通信サービスを利用できるユビキタスコンピューティングの世界へと更に展開するだろう。このとき，このサービスがだれにでも真に利用できるものとするには，通信技術，ハードウェア技術，セキュリティ技術などの基盤技術に加え，人間との接点であるヒューマンインタフェース技術が重要となる。どのように有益な情報も，便利なサービスも，機器の使用法が難しければ活用されない。また，莫大(ばくだい)な情報やサービスの海の中に埋没(まいぼつ)してしまえば，利用者と出会うこともない。

人間が莫大(ばくだい)な情報と向かい合うIT時代では，インタフェース技術は，人間の操作と機械の機能を関連付けた従来の操作性という観点では語るができず，人間の要求や行動目的と情報や支援という観点で考えなければならない技術である。この人間の要求や目的をいかに的確に把握しそれを支援するかという人間中心の視点に立ったインタフェース技術，それを我々は，IT時代から今後ユビキタス情報通信社会のヒューマンインタフェースと考えている。

この特集では，その基盤技術である音声処理，画像処理，情報処理，人間視点での評価技術を紹介し，それぞれの技術の今後の進展から，三菱電機を目指すヒューマンインタフェースを展望する。



## 人間と情報の関係とIT時代のヒューマンインタフェース

情報通信技術の進展により，ユーザーは，多種多様な機器と対面し，またそれを通じて，莫大(ばくだい)な情報や情報通信サービスを受けられるようになる。このような環境では，機器の種類，場所，時間によらず，必要とする情報やサービスをだれでもが得られる必要がある。すなわち，ヒューマンインタフェース技術は，この人間の要求と情報やサービスとの接点という観点で，新たな時代を迎えていると言える。